

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7回(仮称)相模原市子育て支援・子どもの権利条例検討委員会				
事務局 (担当課)		健康福祉局 こども育成部 こども青少年課 電話042-769-9811(直通)				
開催日時		平成26年8月22日(金) 午前10時~正午				
開催場所		相模原市役所 会議室棟1階 第2会議室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	3人(こども育成部長、こども青少年課長、他1人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		議 題 (1)(仮称)子育て支援・子どもの権利条例の検討について  (2)こどもミーティングについて  (3)その他				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 議 題

#### ( 1 ) (仮称)子育て支援・子どもの権利条例の検討について

##### 条例案の前文について

協議の基となるよう、事務局より前文の案を示し、意見、前文への要望等含め、前文について協議された。

もっと独自性を出すべきではないか。地域性やオリジナリティがあるような表現ができないか。

他市の条例では、最初に宣言があるものがあり分かりやすい。九都県市の共同宣言を入れるなどすると、相模原らしさが出るのではないか。

相模原の特徴を出すために、共同宣言の「子どもの笑顔を守る」は、とても良いと思う。

自然のことで特徴を出すなら、他市にも自然を踏まえた特徴がある。

自然を踏まえ、潤水都市をイメージするようなものを入れると引き立つのではないか。

オリジナリティがポイントだと思う。次世代育成支援行動計画に良い理念があるが、この前文の中に出てこない。市の基本方針などが相模原らしさの基盤になるのではないか。それを子どもがわかる平易な言葉で表現できると良いのではないか。

子どもが読んで、自分たちのことを言っていると分かる、ここだけ読めば、自分たちの条例だと分かるようにできれば。

相模原で生まれ育ち、生きていく、地域の一員という意味あいの表現を前にだしてほしい。大人が、ここがふるさとだと、子どもに伝えていく必要がある。

子どもに対して、大人に対して問いかけるような表現できないか。

子どもたちが感じている相模原らしさがあるのではないか。子ども目線の表現ができれば。

いじめ防止条例とはトーンが違っていいのではないか。大人は子どものことを想っているというメッセージが表せると良いのではないか。

こどもミーティングで子どもの考えを聞けるかもしれないが、条文には難しいので、前文に活かしたい。

相模原は多様性に富んでいる。その多様性が子どもたちの明るい未来結びつく、というような表現ができれば。

条例のための前文でなく、条例のことを一旦はずして考えたい。この条例だけは、市の他の条例と違っていいと思う。

条例につなげるためだけでなく、宣言文であってほしい。

「児童の権利に関する条約」の前に「憲法及び」を入れて欲しい。条約の上にあるのが憲法。「条約の理念」ということなら憲法の理念もあるはず。市の他の条例との整合性もあると思うので、事務局で法務担当課に確認していただきたい。

第16条は、子育て支援の条文なので、保護者のことが先に来る方が良いのではないか。

いただいた意見を元に法務担当課と調整し、次回の検討委員会前に修正案を提示する。「憲法」の記載についても確認する。

(2) こどもミーティングについて

当日の進行、グループワークの進行について説明するとともに、担当日以外も可能な範囲での参加を依頼した。

(3) その他

次回以降の開催について、当初予定の9月9日を変更し、こどもミーティング後に開催することとしたため、日程調整を行った。

調整の結果、第9回として開催を予定していた10月3日の開催を第8回とし、第9回を10月9日(木)午前10時から開催することとした。

以 上

(仮称)相模原市子育て支援・子どもの権利条例検討委員会委員  
出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	岩城 栄二	横浜弁護士会 弁護士		出席
2	大溝 茂	桜美林大学教授	委員長	出席
3	小川 紳夫	元小山小学校長(退職校長会)		出席
4	森 長秀	日本大学准教授	副委員長	出席
5	遠藤 靖明	公募委員		出席
6	小林 祥子	公募委員		出席
7	下鳥 良礼	相模原人権擁護委員協議会		出席
8	田代 秀之	相模原市小中学校PTA連絡協議会		出席
9	田所 昌訓	相模原市自治会連合会		出席